

ニュースレター From 中国 (2 0 0 6 . 5 . 9)

1 . 農業由来の環境汚染防止策 : 2 0 0 6 . 3 . 2 1

中国東部の都市、上海の市当局に取って、農業由来の環境汚染の防止が大きな責務になると思われる。

市当局の農業担当官に依れば、今後 3 年間、上海市の環境保全には、大型畜産、養鶏農場等の農業由来の汚染防止と農作物の茎の利用等の総合対策が含まれ、5 つの畜産廃棄物処理センターが建設され、有機性肥料の使用の推進と農薬の使用削減が進められるとの事である。

2 . 廃棄医薬品処理の安全対策 : 2 0 0 6 . 2 . 2 5

中国の環境監視のトップと国際機関の共同で、大規模な環境に優しい廃棄医薬品処理のプロジェクトが進められる。

このコストは約 4 5 百万米ドルで、凡そ半分は総合的な環境施設建設に使われる。

4 年計画の本プロジェクトは、現行の処理施設の改善と最新のサービスの確立に依って、廃棄医薬品の処理の過程で生ずる、永続的有機性汚染物質 (POPS) の発生を抑える事を目指している。

政府の環境保護機関 (SEPA) の発表した数字に依れば、中国では毎日 1 , 5 0 0 トン以上の廃棄医薬品を出しており、この量は増加していると思われる。

専門家に依れば、若し SEPA が POPS の発生を抑えねば、深刻な汚染のリスク、特にダイオキシンの汚染レベルは上がると言われている。

現在、中国の処理施設は主に燃焼技術を採用している。

中国技術院の環境計画局の Wu Shunze 氏は“ 然しながら、私の調査に依れば、中国の 1 7 1 の廃棄医薬品の焼却施設の多くは、汚染対策の正しい基準に達していない ” と述べている。

この汚染問題を解決する為に、政府は SEPA と国家発展改革機関が、有害廃棄物並びに廃棄医薬品処理場建設計画を取りまとめる様裁可した。

しかし、厚生省の Wu Yinghong 氏は、“ 我々は、廃棄医薬品処理の規則を持っているが、この計画は、現実的でなく完結していないので、実現する為には、未だ多くの困難がある ” と述べている。

3 . 2 0 0 6 年のゴミ発生量 :

全世界のゴミ年間発生量の約 3 分の 1 は中国で発生していると思われ、中国政府の全てのレベルで、この処理問題が緊急処理事項になっている。

1 9 8 0 年に、中国は都市衛生状態改善のキャンペーンを開始し、それ以後この目的の為に活動して来ている。

この 2 月、政府、内閣は環境保護強化に関する文書を出し、ゴミ処理を 8 つの重要施策の

一つに掲げている。

世界では、ゴミは年間8%増加しているが、中国では10%増加している。

世界の発生量は490百万トンで、中国だけで、150百万トンの発生である。

現在、70億トンものゴミが中国国内の都市で、未処理で放置されている。

毎日発生する膨大な量のゴミ処理は、以前からも頭の痛い問題であった。

政府の電話ホットラインは毎年、住民から、環境に関する多くの苦情を受けており、多くは、生ゴミ関連であった。

中央政府は毎年多額の資金をゴミ処理に投下しており、全ての市は夫々の処理センターを持っている。

然しながら、政府の環境をクリーンにする努力は、中国の都市化のスピードに追いついていないと思われる。

この急速な都市化は、都市に於ける人口の爆発、より多くの高層ビル、急速な産業化とサービルセクターの拡大を齎し、ゴミの大量発生を齎している。

4. クリーンな都市：北京、2006年

北京市は、ゴミを環境的に健全な状態で処理する様、あらゆる努力をしている。

現在、94%は環境的に無害な状態で処理されており、北京市の環境保護局は、目標として今年96%、2007年97%、2008年98%を掲げている。

北京市は、市内の8つの地区と周辺の衛星都市の多くで、完全なゴミ処理管理システムを建設して来た。

一日当たり処理能力8,800トンを持つ、18のゴミ処理センターを建設して来ており、その中に、4つの巨大なゴミ輸送ステーション、9つの巨大な堆積場、3つのコンポストプラント並びに2つの焼却場が存在する。

然しながら、一日当たり発生する11,500トンのゴミ、これは、年間2%増加しており、処理施設を更に増やす必要がある。

2008年までに、北京市は毎日12,000トンのゴミが発生すると予測しており、年間の発生量は、4.38百万トンである。

廃棄医薬品は一日当たり60トンの発生で、家庭で発生する生ゴミは1,200トンと予測されている。

これは、北京市のゴミ処理能力に取って、難しい試練である。

北京市行政局のLiang氏に依れば、北京市は今年と来年で100億元を投資して、ゴミ処理施設建設を予定しており、市場指向の管理モデルを採用するとの事である。

一つの主要なプロジェクトはプラスチックバックを処理する為の分離装置で、Majialouのゴミステーションに設置される。

プラスチックは洗浄され、圧縮され、企業に売り戻される。

この新しい分離設備は、北京市では2台目で、1台目は Xiaowuji ゴミ移動ステーションに設置され、一年以上稼働している。毎日、この設備は、1,000トンのゴミから、5-6トンの使用済みプラスチックバックを分離回収する。

このプラスチックバックは、他のゴミと一緒に埋められていたが、現在はトン200円で販売されている。

Asuwei 総合ゴミプラントの建設が始まっており、これは、270百萬元の投資で、中国最大の生ゴミ処理の施設も含んでいる。

2007年までに、北京市は一日11,800トンのゴミ処理能力を持つと予想される。又北京市は家庭周辺でのオンサイトのゴミ処理プログラムも採用しており、Xinwaidajie 6番地区を含む250地区で、試験中である。同地区は、約1,000の戸数で、一日1.5トンのゴミの発生である。

ゴミは先ず、住民により、おおまかに選別される。

ゴミの約30%を占める紙、プラスチック等はリサイクルステーションに運ばれ、70%を占める、食品ゴミ、木屑、果物のゴミ、更には木の枝、葉等は処理施設に運ばれ、すり潰し、脱水される。

分解、発酵後、粉末又は顆粒状の有機肥料になり、花や草に使用される。

北京市は、ゴミ処理を環境上安全なものにすべく、別の焼却場、二つの堆積場、7つの総合ゴミ処理プラントの建設を計画していると報じられている。

5. 廃棄物の産業利用：Guiyang, 2006年6月16日

燐化学は、Guizhou 州の州都である Guiyang 市の Kaiyang 郡の主要な産業であり、Kaiyang フッ素除去燐会社は、最大の化学企業である。

Guiyang 市回収可能資源局の職員に依れば、化学プラントはテイルガスを発生し、このガスは90%が炭酸ガスである。

再生可能経済の疑念の推進以来、科学的な手法が採用され、燐工場のテイルガスから発生する炭酸ガスを、産業資材を生産する為のエネルギーに転換する方法が検討されて来た。

この固形産業廃棄物は、セメント工場の原料として売られており、空気汚染の抑止は勿論、ゴミ処理コストを削減する革新的な方法である。

Kaiyang 郡の Kaiyang 燐と石炭の化学デモ基地は、ハイテク技術を利用する事に依って、再生可能経済を確立すると言う、特別な意思を持って建設されて来ている。

同じ様なトライアルのプロジェクトが Guiyang で、例えば Qing 町の石炭化学基地、又 Yongle タウンシップでは、有機野菜と果実の基地の建設が行われており、Wudang 地区でも進行中である。